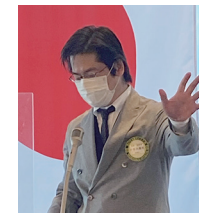


第16回例会 2022年11月9日(水) 晴 No. 3038 ●ソング＝我らの生業 進行：西川雅之SAA

■卓話■ 小保内義和会員



盛岡北 RC ・卓話
～法律相談のきほんのき、ほか～

令和 4 年 11 月 9 日

〒 020-0021 岩手県盛岡市中央通 3-17-7 北星ビル 3 階 北奥法律事務所
電 話 019-621-1771 F A X 019-621-1772 <http://www.hokuolaw.com>
文責 小保内義和

第 1	改めて自己紹介（貴方は何をしている人ですか、という方のために）	1 頁
第 2	これまでの卓話一覧	2 頁
第 3	法律相談のきほんのき	3 頁
第 4	顧問契約・顧問弁護士について	4 頁
第 5	プラスチック災禍による将来の人類等の絶滅？と「貴方は何かしますか」	5 頁
第 6	今、RC・当クラブについて思うこと（来週のご参考に）	6 頁
第 7	添付資料一覧 ①RC「友」講演録、②プラゴミ写真、③ブログ記事	

第 1 改めて自己紹介（本業の詳細は、事務所 Web サイトを参照）

1 略歴

二戸出身、平成 9 年司法試験合格、平成 10 年～12 年まで司法修習（盛岡）
平成 12 年 4 月から 16 年 10 月まで東京の法律事務所に勤務
平成 16 年 11 月に北奥法律事務所を開設、現在に至る。
当クラブには平成 27 年 2 月入会（故・清水泰宏もと会員のご紹介）

2 取扱業務～地方都市で従事する「一般的な弁護士」の業務全般～（紛糾なら訴訟等）

- ①中小企業法務（中小企業等に関する各種の法律問題の処理、書類審査等）
- ②家事（男女・親子・後見・相続・遺言などに関する法律問題の処理・解決）
- ③交通事故（被害者側での賠償請求、加害者＝損保側での請求対応など）
- ④債務整理（自己破産、民事再生、任意整理、過払金請求、企業倒産・管財等）
- ⑤その他の民事一般（借地借家、売買、労働、消費者問題・各種契約トラブル、近隣紛争、各種損害賠償等の処理、解決）
- ⑥公権力を相手方とするもの（刑事事件＝弁護人業務、行政訴訟など）

3 取扱や業界の実情（「フツウの町弁」の典型例の一つとして）

東京時代は①③中心、岩手開業直後は⑥（刑事国選）が多く、震災までの数年間は④が圧倒的。現在は②③が最も多いが、概ね各分野まんべんなく受任し対応している。但し、④はクレサラ問題＝グレーゾーン金利の終焉で劇的に減少し、①も地元のツテのない町弁の宿命？や東京との経済構造等の違いで件数は限られ、⑥（刑事）も若手増加などの影響もあり取扱は多くはない。

これに対し、②は、弁護士の介入を必要とする紛争や法的問題の増加（地域の紛争解決機能＝弁護士以外の機能の低下や相続財産管理人などの対処を必要とする「空家問題」の増加が典型）により需要は増えており（但し、赤字の仕事も非常に多い）、③は、弁護士費用保険の影響などで数年前から大幅に増加した（が、最近減少）。

4 近時の取扱事件の一例

- ① 疎遠になっていた身内が死去し、債務超過の疑いがある等の理由で相続人全員が家裁に相続放棄を行うと共に、債権者らへの対応を依頼するもの。
- ② もともと沢山の関係者が出資して設立した企業の経営（持株）を引き取るようになったが、株式譲渡（集約）に協力しない少数株主がいるので、会社法上の強制買取手続（株式売渡請求）が必要になったもの。
- ③ 新規に雇用した従業員が、面接時の説明等と異なり業務能力や就業態度などが酷く不良であったため、試用期間満了時に正式採用しない（解雇）旨を通知したのに対し、労働組合に加入し組合関係者を通じて解雇撤回等を求める団交申入をしてきたため、それへの対処を要請されたもの。
- ④ 複合施設の建設のため購入した土地（小規模自治体の市街地）で、着工直後に膨大な埋設廃棄物が判明し、調査した結果、数十年前に当該土地で運営されていた企業による埋設の疑いが濃厚であることが判明した。当該企業に撤去や費用負担を要請したところ、「埋設物の数量などが不明だ、当社による埋設なのかも不明だ」などと難癖を付けて費用負担などを拒否してきたため、その対処を要請されたもの。

第2 これまでの卓話一覧（レジュメのコピーをご希望の方はどうぞ）

- ① 相続が紛糾しやすい典型例と一般的な取扱い、遺言で生じる諸問題など（H27）
- ② 会社の後継経営者の選定問題に端を発する、兄弟一族間の支配権紛争例（H27）
- ③ 男女の愛と不倫を巡る法律実務～架空のRC家族？の具体例をもとに～（H27）
- ④ 交通事故を巡る法律実務のきほんのき～具体例をもとに～（H28）
- ⑤ シンガポール植物園と学術資産群を戦災から守った二戸人・田中館秀三の物語（H29）
- ⑥ どんぐりの森で生じうる（かもしれない）各種事故トラブルと法的責任・対処（H30）
- ⑦ 盛岡北RCにおける青少年奉仕（IA・RA）の過去、現在、未来？（H31）
- ⑧ 企業倒産に関する法制等の基礎知識と「経営者保証ガイドライン」など（R02）
- ⑨ ウイルス禍における運営や会員交流の方法・あり方に関する諸提案（R03）
- ⑩ 盛岡北RCにおける「輝かしい国際奉仕の過去」と、忘れられた？姉妹クラブ（R03）

第3 法律相談のきほんのきと基礎的な資料類

1 総論

ア 法律相談とは何か（どのような場合に、何のために行うものか）

→ 何らかの困りごと・悩みごと・問題・紛糾・グシャグシャが生じたとき、それが、何らかの法律の力・法のルール・弁護士の知見などにより解決・決着できる可能性がある場合に、関連する事実関係を弁護士に伝え、問題の所在（論点）を整理し、相応な解決や見通し、実現のため必要な作業などを確認する作業。

→ 紛争解決（問題解決）は、論点を整理し、個別の論点に関する事実を確定させ、認定された事実に適用されるべき法令・法解釈を確定させ、それに事実をあてはめて法律上の効果を確定させ、それにより、事案のあるべき結論を確定させる作業。

→ 弁護士の支援が必要な事案は、論点整理と作業だけで解決できる事案、事実認定が主たる争点の事案、事実ではなく法解釈が争点の事案、の3つに分かれるのが通常。

■ 幹事報告 ■

1. 11/6開催されました地区大会にご参加いただいた皆様お疲れ様でした。インターアクトクラブ 岩手女子高校の田中先生からとても貴重な経験となりましたと事務局にお礼のメールを頂いております。

私自身としても、初めての地元開催の地区大会参加となり、オープニングでは、達増拓也岩手県知事、谷藤裕明盛岡市長が祝辞を述べられるなど、改めてロータリークラブの格式の高さを感じさせられました。

また、会議の中ではよねやま親善大使挨拶として、実際に米山奨学生となったことのあるトゴご出身の、アドゥアヨム・アヘゴ・アクエテビさんからのお話があり、現在の活躍とその経緯の中で米山奨学生の制度がすごく自分の為になっている事を聞き、やはり、世界的規模で奉仕事業を行っているロータリークラブならではの事を感じました。

会議の最後には、ウクライナご出身のウクライナの民族楽器「バンドゥーラ」奏者のカテリーナさんによる演奏があり、演奏と歌と共に平和への大切さを感じる事が出来ました。

来年の地区大会は仙台です。次回の地区大会の際はぜひみなさまもご参加の程ご検討ください。

2. RLI研修パートI 募集について

再度のご案内です。開催は12/3 会場はアイーナ申し込み締め切りが11/14です。受講者をグループ分けする作業があるため締め切り日厳守となっております。ぜひご都合をつけていただき、多くの方のご参加をお待ちしています。

3. ファイヤーサイドミーティング、会場変更のご案内

メトロ本館で案内しておりましたが、こちらニューウイング4階会場に空きがでたとの事で会場変更をいたします。参加の皆さんには念のため会場変更のメールを送りますのでご確認ください。また出欠の回答がまだの方は事務局までお願いいたします。

SMILE

☆吉田祐一会員…今日は会長、副会長の代わりにさせていただきます。小保内副幹事の卓話にスマイルします。

☆岩井澤昭一会員…先日の地区大会に出席された方、御苦労様でした。今日の卓話、小保内さん期待しています。

☆細野裕之会員…皆様ごぶさたしておりました。仕事もだいぶ落ち着いてきたのでこれからは出席していきます。小保内さんの卓話楽しみです。スマイルします。

☆高橋貞勝会員…国際ロータリークラブの盛会にスマイルします。とても良い大会でした。

☆横山幸司会員…今日の良い天気、そして小保内さんの卓話にスマイルします。

☆小保内義和会員…本日の卓話よろしく申し上げます。先日亡くなった清水泰宏元会員のご冥福をお祈りします。

■ メーカーキャップ ■

日山健一会員（社会奉仕清掃）

工藤 泰会員（親睦コンペ）

田村清記会員（親睦コンペ）

出 席 報 告

会員数	33名
出席数	11名
出席率	37.93%
前々回修正出席率	48.39%

■会長代理報告■ 吉田祐一会員

今日は海野会長、二宮副会長が欠席ですので、代わりにエレクトの私、吉田が会長報告を代行させて頂きます。

先日の2520地区、地区大会に出席して来ました。参加頂きました会員の方々、お疲れさまでした。久々に他クラブの面々とお会いし会話でき有意義な一日を送って頂いたと思います。直接、顔を合わせ話しが出来る事は、相手の方々の表情、感情を感じられ改めて良いなあと思いながら会話を楽しませて頂きました。皆さん、ありがとうございました。

当日は達増岩手県知事、谷藤盛岡市長にも、ご出席頂き祝辞を頂きました。いつもの地区大会より縮小した感はありましたが開催できた事に盛岡南RCの皆さんへ敬意を表したいと思います。

大会本会議で米山親善大使・アクエテビさん(アフリカ・トーゴ)が米山奨学生になるまでの話から現在、義肢装具提供関係に係る運動に至るまでの話を伺いました。

記念講演では日本に二人しか居ない、ウクライナ民族楽器“バンドゥーラ”奏者、カテリーナさんの美しい歌声、演奏に時間を忘れ聞き入っていました。それと同時に、今も続いているロシアの侵略戦犯に改めて強い憤りが沸々と込み上げてきました。非情にむなしいです。

最近、クラブに対して感じている事を話をさせて頂ければ、クラブ会員の減少、例会の出席率の低迷です。どんな組織でも、ある程度の数が必要に思います。会費や運営などの事で最低限の会員数(?)が居ないとその組織が動かなくなる。そんな危機感があります。

では、そんな中、自分はクラブの会員増強に対し、どんな事を協力実践しているかと言うと、これと言った事をしていない。「行き当たりばったり」「何かの時にでも」と言った感じで、全く行っていないのが実情で会員増強委員会に任せっきりです。言う事は容易いですが、「実際行動する事が出来るか? どうかなの?」今一度どうしたら良いか自分なりに、具体的に考え、行動して行きたいと強く感じています。

鈴木会長、田村会長年度で会員数50名を目標に会員増強運動を行い、会員数45名前後まで伸ばした時があります。諦めず今後も、この問題を直視し自分なりに行動して行きたいと思っていますので、更なるご指導、ご協力を宜しくお願ひしたいと思っています。

来月12月はクラブ協議会があります。約半年後は自分が会長を担当する年度です。2回目の会長と言う事でプレッシャーを感じています。会員皆様方の更なる、ご協力をお願いし本日の会長報告とさせて頂きます。ありがとうございました。

■認知症共生社会に向けた製品・サービスの効果検証事業について■ 西川雅之会員

ロータリーの目的の一つである「奉仕の理念の実践」の観点から、皆さまに可能な範囲でのご協力のお願ひです。

現在、経済産業省サービス産業強化事業補助金「認知症共生社会に向けた製品・サービスの効果検証事業」として、株式会社マイヤ様(本社:大船渡市)が「スローショッピング・パートナー活動」を展開されています。

まわりに気兼ねなく、ゆっくりとスーパーで買物ができる「スローショッピング」を、認知症の方(「認知症高齢者の日常生活自立度Ⅰ」以上の方)に体験頂き、ご感想を伺いながら、効果検証を行う事業です。

本事業の事務局支援を、みずほりサーチ&テクノロジーズ株式会社が受託し、株式会社みずほ銀行盛岡支店もサポートしています。

皆さまのご家族・お知り合いの方で、「スローショッピング活動」にご協力頂けそうな認知症の方がおられましたら、ご紹介願ひます。「スローショッピング活動」を実施しております株式会社マイヤ様の店舗のうち、仙北店・青山店にお越しいただくことを想定しています。

なお、個人情報取り扱いにつきましては、当然にして、厳格に行います。よろしく願ひいたします。

イ 留意点

当然のことながら、弁護士(目の前にいる人間)は、貴方ではない=貴方が知っている・当然の前提としている事実を全く知りません。それなのに「ボク困ってるの、なんとかして」と唐突に言い始めても返答できません(これが町弁の現実)。
→相当な資料に基づき必要な事実や論点(相談の趣旨)を整理して伝える姿勢を。
→事案の骨子や相談の趣旨などは、最初に口頭で手短に。
→重要な争点・事柄に関する事実は、「まずは資料で説明し、口頭は補充で」
資料を読み込むと、ご本人の認識が資料とズレていることも珍しくない。
→重要な争点で「事実関係や認識の争いがある場合」は、各当事者の言い分の骨子やそれに関する資料を。
様々な経過が関係する事案では、登場人物の整理や時系列表などを。
言いたいことだけ伝えるのではなく「何を伝えるべきか」を考へて準備する姿勢を。
一番大事なことは、「何を解決したいか、何を相談・依頼すべきか」の目的意識を明確に。法的論点以外にも、ご自身が解決したい事柄・論点を全て伝えることが大切。
現実には、関係者・相手方への不満を延々と話し続けると気が済まない相談者も珍しくない(無理筋事案など)。時には我慢して聞いているうちに道が開けることも。
一定の作業が必要な事案では「ご年配のご本人だけ」は無理。家族一丸などが必要。
結局、「天は自らを助くる者を助く」のが現実であり基本。

2 各論の代表例

ア 売掛金・商取引などに関するもの

契約書、注文書・注文請書、納品書、その他・争点に関する資料類(瑕疵の有無等)回収の可否が問題なら、債務者の資産(不動産・金融資産・売掛金等)の資料訴訟など(裁判所の手続)を予定する事案なら

イ 不動産に関するもの(所有権紛争・境界、借地借家・登記・不動産売買など)

登記事項証明書、固定資産評価証明書、公図、売買契約書など境界紛争などの事案なら、境界点を特定した測量図が必要→土地家屋調査士の支援

ウ 離婚や相続に関するもの

当事者の関係図、法的手続が予定される事案は戸籍事項証明など。
主要な時系列(離婚等なら婚姻日・別居日など、相続なら被相続人の死去日その他)当事者の資産・負債に関する概要と関係資料(離婚=財産分与、相続=遺産分割等)多様な争点がありうるので、事案・争点に応じた要望の趣旨・事実の整理、資料を。

エ 交通事故・各種賠償請求など

交通事故証明書、治療等に関する資料(診断書・レセプト等)、休業損害証明書等→交通事故なら任意保険等の書式あり、他の類型では揃えるだけで大変かも。物損のみか人身もか、後遺症の有無、過失割合・事故態様が争点か等で全く異なる。

オ 債務整理など

負債と資産の概要、債権者一覧表、督促書類等、主要資産に関する資料など企業倒産の場合、「対外的な表明(銀行等への通知)」の予定日とそれまでの準備

第4 顧問弁護士・顧問契約について

1 顧問契約（顧問弁護士）とは何か、どのように利用・運用されてきたか・いるか

・顧問契約とは、形式的には、所定の顧問料を支払う代わりに、契約で定めた相談や作業依頼その他のサービスを当該弁護士から受けることができる合意を指す。

・東京では「月額5万円から」が基本。岩手では「3万円」が多いらしい（某先生）。

・もともと（かつて。今も？）、弁護士は「ごく限られた人（超難関と言われた司法試験の合格者。昔は裁判官・検察官を含め年間500～750名）しか就業できない仕事」で、需要に対し供給が圧倒的に不足していると言われていた（2割司法）。

→そのような時代では、「予め、相応のカネを払って弁護士（のサービス）を囲い込んで（事前に確保して）おきたい」という企業・富裕層のニーズがあった＝これが顧問弁護士という慣行の「一つの本質（弁護士が現実には金持ちのための制度だった時代の名残）」。

かつては、圧倒的？な需給バランスの格差ゆえ？に、大半の弁護士が、相応の数の顧問先を有していたようである。

・現在は都会であれ地方であれ、特定の「大物・有力弁護士」に顧問契約が集中する寡占化が進んでいるように見える。これは、もともと顧問契約自体、人気投票としての面が強く、声望のある弁護士に集中しやすい面があること、「大物弁護士」側も、弁護士増員政策（現在は年間1500～2000人）に伴って勤務弁護士を得やすくなり、大量の顧問受注が可能な態勢を維持できるようになった点が大きい（棲み分けや共存関係が乏しくなり、町弁業界も今や弱肉強食のサバイバル時代に突入・・）。

・IT化などを通じ「大都市の企業法務専門事務所」への顧問契約の集中も。

・一般的な金額（上記）の顧問契約では「幾らでも法理相談可能」と謳われることが多い（事件受任は別途費用・割引額とするのが通例）。

→使い倒し回避のため実際はタイムチャージとの均衡を意識した運用か？

・高額な顧問料を支払って「何も相談等しない」状態が続くなら、単なる不労所得という面は否めない（大物センセイの利権？新旧世代の格差？根本的な力量の差？）

2 当事務所の場合～特殊例としての「月額3000円コース」

・基本（原則？）は月額2万円→ほとんど無し（皆さん、市内等の大物センセイへ）。

→カネはさておき、東京時代に比べて企業法務系の仕事が少ないのは寂しい限り・・

・当事務所の独自の試み～月額3000円（年額3万6000円。税別）のコース

基本は「無料相談等は、原則として1年あたり2時間」、受任費用1割引など。

（町弁タイムチャージ単価＝1時間2万円に準ずる扱い）

→年に1、2回は相談等したいことが生じる方や、さほど相談・依頼したいことがあるわけではないが、手頃な価格で顧問弁護士は持っておきたい方（小規模企業）のご利用を想定。大々的な宣伝等はしておらず、稀に問い合わせをいただく程度。

・セカンドオピニオン顧問、支店顧問などのご活用も。

・伝統的＝高額な顧問契約は期待せず（もはや地元の著名企業に豊富な人脈をお持ちの大物センセイなどでない＝無理＝私には多分ご縁のない世界）、今後も「他の先生方が敬遠するような仕事も厭わず、地味に地道に」というのが実情です。

岩手・盛岡の弁護士 北奥法律事務所 債務整理、離婚、相続、交通事故、企業法務、各種法律相談など。

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通3-17-7 北星ビル3F
TEL.019-621-1771

事務所概要 弁護士紹介 取扱業務 法律相談 受任費用 顧問契約 公益活動 お問い合わせ アクセス ブログ

トップ > 公益活動等 > 環境問題 > マスク散らかる街角に身近な善意をもう一度

マスク散らかる街角に身近な善意をもう一度

いいね！ 0 ツイート 0

新型コロナウイルスの物陰以来、町中で道端にマスクが落ちている光景を目にすることが非常に多くなったような気がします。

マスクに限らず整備された歩道などにゴミが落ちてると、その光景を目にすること自体が嫌で、拾ってゴミ箱に捨てたいという欲求にかられます。

が、手に持って事務所まで延々と持ち歩く気にもなれず、仕方なく悲しそうな目をしながらやり過ごすことになりませんが、いじめの光景を見て見ぬふりをしていような嫌な気分になり、ますます腹立たしい思いにかられてしまいます。

そういうとき、すぐそばにゴミ箱があれば（衛生上の問題がある場合を除き）拾って捨てるのにと思ふこともありますが、昔は街角にゴミ箱があったような気もしますが、今はそうしたものもほぼ見かけません。

そこで、通りに面した各種店舗・オフィスなどが「近所のゴミ受け入れOK宣言」を出し（ステッカーなどを入口に貼り）、例えば、店舗の半径50～100m以内の路上に落ちていた小さなゴミを拾って届けると、お店のゴミ箱に捨てさせてくれるという仕組み（慣行）があれば、そうした光景を見逃すのが嫌な人は拾ってすぐに捨てることができ、有り難いと思えました。

お店側も勞せずして？店舗付近の環境美化に繋がりが、有意義だと思います。

マスクなど衛生リスク品も、お店にゴミ拾い用のトングなどがあれば、それを借り、拾って返すこともできると思います。

また、スマートフォンを通じてゴミ拾い情報を送信すれば少額のポイントが付与され、それを各種の値引きに利用できる（マイナポイントのような）仕組みがあれば、情けは人のためならずということで、普及しやすいのではと思われます（不正防止の配慮も要るのでしょうか）。

現在、町中に落ちていたマスクの大半は、いわゆる不織布マスクですが、ご承知のとおり、これは紙（木製）ではなく精巧に作られたプラスチック繊維で出来ているそうです（詳しいことはWebでどうぞ）。

ですので、（焼却されなければ）自然に戻るには莫大な年月を必要とするので、町中に放置→雨水（融雪等を含む）で河川流入、又は土壌滲入となれば、生物の誤嚥やマイクロプラスチック問題など万物ひいては人類に様々な刃が向けられることとなります。

というか、すでに将来の人類等に深刻な事態が作出されつつあることは皆さんご承知のとおりです。

マスクに限らず、圧倒的なプラゴミ等が河川・海洋に流出していることは、春先や台風等のあとに郊外のダムを見に行けば（或いは人があまり来ない海岸に行けば）岸辺に大量のゴミを見かけることで、誰でも理解できることだと思います。

盛岡市も、「サクが戻ってくる川」などと標榜するのであれば、プラゴミ宣言を通じて淀川への流出を阻止しようとする熱心に取り組んでいる京都府亀岡市などに見習って、自ら行動すべき事柄が色々あるのではと思われます。

大上段のことを申すつもりはありませんが、とりあえず、街角に落ちていたゴミを、躊躇なく拾って、すぐにゴミ箱に捨てさせてくれる社会を、我々は取り戻すことができればと願っています。

昔なら、駄菓子屋のおばちゃんに「ごめんなさい、いいですか」の一言で足りたのでしようし、その際、ささやかな善行（偽善？）の快感やおばちゃんへの感謝から、うまい棒の一本でも買っていったのでしようから。

カテゴリ：環境問題, 社会全般 | タグ：プラスチックゴミ問題, マスクのポイ捨て, マスクの落とし忘れ, 不織布マスク, 使い捨てプラスチック製品, 街角のゴミ拾い支援

最近の投稿
いじめ問題や学校事故に関する第三者機関と弁護士の役割
もう一つの「養生はどう生きるか」の物語と、黄昏の中で止まった時間
建築訴訟を巡る一國二制度と訴訟実務の行方
あらえびすと利き酒の旅
バスと二戸と「北奥文化園」の魂～函館R1.10往訪編②～

第5 プラスチック災禍による将来の生物・人類の絶滅?と「貴方は何かしますか」

1 「ロータリーの友」読んでますか〜 R04.6月号にも書いてある問題の所在(資料①)

- ・世界の海のゴミの約80%は陸からやってくる。その7割がプラゴミ。
- ・街中のゴミは、小さな河川から大河→海洋に向かう。プラゴミは特に。
- ・プラスチックごみは腐敗せず半永久的に自然界に残る。
- ・ウミガメや海鳥など多くの海洋生物が、現在、プラゴミを誤食等して死滅している。
- ・海洋等でごく微量化するなどしたマイクロプラスチック(プラ繊維衣類などからも排出される)は、プランクトン等を通じて食物連鎖のピラミッドを少しずつ遡上する。その際、消化できない性質上、摂取した上位生物の細胞等を徐々に傷つけ、生態異常を生じさせ、寿命低下など当該生物自体の負の影響を生じさせると共に、それを摂取する上位生物=人間などにも同様の負の影響を生じさせることが強く危惧される。
- ・2050年には海のプラゴミの総量が海洋生物の総量を超えるとの予測(Web等)

2 で、解決のため、誰が何をしているのか

(1) そもそも、貴方は、誰が何をすべきだと思いますか?

- ・確実に回収する? 投棄させない? 燃やさない? 再利用する?
- ・作らせない? 利用しない? 代替素材・代替用法を開発・利用する?
- ・流出プラの回収は? 深海プラ、マイクロプラの回収は不可能=滅亡を待つばかり?

(2) 国(政府)は何をしているのか

- プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律(R4.4施行)など
- プラスチック製品の排出抑制・回収再資源化の基本方針策定、設計製造や販売提供、排出段階の指針等、分別回収等・再商品化計画の作成と認定、事業者回収、報告徴収などを定めるが、強力な手段は伴っておらず、理念を掲げて関係者の善処を期待するに止まる面が強い。

(3) 自治体は何かしているのか

- 栃木県などはプラスチック資源循環推進条例、和歌山県などはゴミ散乱防止条例。但し、実効性は?(強力な手段は講じてなさそう)。まして、岩手・盛岡は??
- 京都府亀岡市(京都市の西=嵐山・保津峡の先)の「レジ袋禁止条例」
- 岩手も、北上川・馬淵川などを通じて、マスク・ゴミ類など大量のプラ投棄物が。「北上川のサケ遡上が見れず残念だ」→自分は川や海のために何もしない? 岩手も全国も、メシの種(保津峡下り)がないと、厳しいルールは作れない?

(4) 企業(大規模企業・小規模企業)その他は何をしているのか・何かしているのか

- ペットボトル回収? レジ袋有料化? それだけで足りるの??
- 漁業プラ、散乱し河川・海洋流出するゴミ類、微小プラ製品等、災害流出 etc..

(5) 国民一般は、世界の人々は、何をしているのか・何かしているのか

- 欧米等の「太平洋プラゴミベルト回収作戦」?
- 海外ホテル等では、「使い捨て(ワンウェイ)プラ」は有料等。貴方は?

(6) 参考文献(の一例)

中嶋亮太「海洋プラスチック汚染」(2019)

科学の目で見た
海のプラスチックごみ

チックを一つずつつまみあげて分けていきます。その仕上げ作業のみ担当の研究者が僕の研究室に3人いますが、朝の9時から午後4時まで、ひたすら赤外線カメラでプラスチックか否かを判断していきます。7年間で20万粒くらい、仕分けしたと思います。

ここではつきりしたことは、世界の海に比べると、日本の周囲の海にはマイクロプラスチックがひどく多いということでした。現在、赤道から北の北太平洋でならば、海面1平方メートル当たり平均10万粒ほどが採集されます。南極海だったら、1万粒ほどです。ところが、日本の周りの海、東アジアの海、あるいは東南アジアの海ではもう一桁上がって1平方メートル当たり100万粒は浮いています。

太平洋の平均値の、その10倍の量がアジアの海には浮いているという結果です。アジア世界は、プラスチックごみをひどく捨ててしまっています。日本では、1年に約14万トンのプラスチックごみが道端に捨てられているそうです。

どうしたらいいんだろうか。よく言われるのが「3R」。「リデュース、リユース、リサイクル」。リユースは、再利用する。リサイクルは、またプラスチックを使う。でも、この二つの方法は間に合わない。もう減らすしかない。「リデュース」ですね。プラスチックをもちよつと使わないように、減らしていかないといけない時期ではないですか。とても便利で優れた素材だけれども、いくら何でも使い過ぎかな。自然の中に残ってしまったものを、ここまで使うのはよくない。日本でも近年、国を挙げて、プラスチックごみ削減へ向けて動き出していますよね。

海岸でプラスチックごみを掃除する。これとても良いことなんですよ。皆さんが海岸でペットボトル1本を拾い上げることは、太平洋で1平方メートルあたり浮かんでいるマイクロプラスチックをざつとすくう行為と基本的には一緒、重量的には同じです。マイクロプラスチックになってしまえば回収するのは不可能ですが、マイクロプラスチックのままの時に集めてしまえば回収できる。海岸で掃除することはそういう意味もある、というこも知っておいてほしいと思います。

まずは
マイクロプラスチックを
自分の目で見てみてください

今日話したように「プラスチックはダメだ」と言われると、ちよつとつらい、という人が世の中にはいっぱいいます。何といっても、とても便利な代物ですから。ペットボトルなら、水を安全に清潔に、軽く速くに運ぶことができ、それにより命をつなぐことができるのです。それも、世界の一方の現実です。

ですから、プラスチックが今の世の中の役に立っているという事実を「一気にはだす」のは、それはそれでちよつと無理があつてよくないなと感じるのは自然な感覚だと思います。便利で快適な暮らし、清潔な暮らしを支えている現実がプラスチックにはあります。しかし、そのプラスチックの良さに僕は頼り過ぎました。いくら何でも使い過ぎている。減らす方向に向くべきだと、人類は反省をし始めた地点に立っています。プラスチックを捨て続けると、海の生態系が崩

れます。何より、こんなに広がってしまったマイクロプラスチックは、回収不可能です。繰り返になりますが、海岸で掃除することは良いことです。マイクロプラスチックになる前に、プラスチックごみを掃除する。それはとても大事なことです。でも今、もつと大事なことは、これ以上プラスチックを使わないようにすることです。今も変わらず、プラスチックを使わないといけない人は世界にいます。その人たちのためにプラスチックの使用量を減らし、使わなくてもやっていける人たちは使わない、という選択をする時期にきています。

最後になりますが、実際に海へ出かけて、自分の目で、マイクロプラスチックというものをぜひ観察してみてください。残念なことに、これは簡単なことなのです。もう、どこにでもあります。すぐ見つけるコツは、満潮後の浜辺に行くこと。

海藻などが流れ着いている辺りを何となく見てみると、小さなプラスチックが目に入ると見えます。もし見えないぞ、と思われたら、砂をハケツの中にとりかき入れてみてください。そこに海水を入れる。そして手で混ぜる。するとプラスチック、特にポリエチレンやポリプロピレンという水より軽いプラスチックが、ふわりと浮かんできます。発泡スチロールも浮かんでくるでしょう。ハケツに海水を入れて混ぜ、浮かんでくるものはほとんどプラスチックだと思えます。

よくよくハケツの中を見て、どれだけプラスチックが浮いているか、ぜひ観察してほしいのです。今の海の現実を、一度、しっかりと自分の目で見てください。

(ホスト 糸島RC)

3 そして、貴方は何かしていますか？私は、少しだけ始めました。たぶん。

→写真（資料2）。今も、この街では（この街でも）不織布マスクなど、多くのプラスチックが放置され、河川に流出し、海洋に到達し、遠方の海岸で、或いは深海などで、多くの生物を殺傷したり、数万年？に亘り海底に蓄積し、マイクロプラスチックとして食物連鎖などにマイナスの影響を与えることになるのでしょう。

誰もが、それに無関心で、或いは見て見ぬふりをしているように見えます。

負担感がさほどない方法で、解決のため何か始めてみませんか？

→可能なら、多くの人々の協力を呼びかけてみませんか？（資料3）

第6 今、RC・当クラブについて思うこと（来週のご参考に）

1 ローターリーとは、奉仕とは

ロータリーとは何か、奉仕とは何か、小学生にも分かるように説明して下さい。

→お金持ちと小金持ちの親睦団体（小保内、ときどき除く）、が正しいのでは？

→お金持ちも小金持ちも（まとめて「有産階級」）、そうではない人々を含む多くの人やモノに支えられて、今の生活水準を享受している。

それを理解し、感謝する気持ちを持つ人々が、RCに来ている（はずである）

→だからこそ、自分が得てきたものを社会に還元しないと、バチがあたる（いつかは、自分又は身内などに累が及ぶ。フランス革命などのように？）。

→結局、RCの「奉仕」とは、恩返し（或いは厄除け）なのでは。

（そのような観点から、RC・当クラブが何をすべきか考えてもよいのでは）

→少なくとも、ボーイスカウトなども「奉仕団体」である。が、大人を食物にして育っていくべき子供達と、「子供達のためよりよい食物にされるべき」RCとでは、担うべき奉仕云々の意味合いは全く違うのでは。

2 出席率の理想と現実、建前と本音？

RCは昔から出席率にうるさい（厳しい）。本来は例会等は全部出席が原則である。

それは、RCが、「会員同士が強固な結束力・友好関係を持つこと」を目的に結成された団体で、例会等が、そのメンタリティの醸成の場であり象徴とされているから（米国の田舎の教会のミサのようなもの。ミサをサボれば他の教徒に叱られ、たぶん、やがてミサに来ることもできず、その地域にいることもできなくなる。）。

出席原則が厳しく守られることはRC会員の結束力の不可欠の要素とも言え、それが守られなくなれば、組織の求心力も失われる。

しかし、当クラブ（たぶん、日本の大半のRC）の現実はそのようではない。

諸般の事情から、およそ例会に出席できず、或いは基本的には出席の意思がないと思われる方々も、RC・当クラブには多数、会員登録している。

歴代の会長など多くの役員が、例会の出席者に対し、出席率向上を呼びかける。

その声は、恐らく、そうした「そもそも来ない・来れない」方々に届くことはない。

他方、その方々が会費を負担して下さるからこそ当クラブが維持できているという現実も否めない。誰も「例会に来ない人は辞めて下さい」などと言えないし思わない。

科学の目を見た
海のプラスチックごみ

ジ袋です。プラスチックごみの14%を占めます。これがとにかく一番多い。では、プラスチックごみが海に出てしまうと、どういった問題が発生するのか？

単純にまず景色が台無し。ごみがたまって、いろいろな海岸で海水浴をしようとか、キャンプをしようとか、あまり思わないですよ。また、腐らないので永遠に残る。腐るということはモノが消滅し、別のモノに変わって、自然界の中にも一回、戻って使えるようになることも意味します。腐敗は、無機物を使って植物が増え、その植物を食べる生き物が暮らしにくく、という自然界の大きな循環の中に取り込まれるということ。別の問題として、プラスチックにからまって苦しみ、死んでしまう生き物もいます。

そして、初めは大きな形状のプラスチックですが、放置しておくと、どんどん細かく砕けていきます。厄介、面倒極まる特徴です。大きなプラスチックごみをマイクロプラスチックと称しますが、海に漂っているうちに浜辺や海岸に打ち上げられ、紫外線に当たるとマイクロプラスチックは劣化し、もうなくなって波にのみ込まれると、小さく割れ、直径5μmほどになります。その小さくなったプラスチックを「マイクロプラスチック」といいます。初めてマイクロプラスチックが認識されたのは、1972年のことです。アメリカの東海岸で網を引いた研究者が、微細なプラスチックがいつぱい浮いていたと報告しました。1μm×1μmの海の中に、だいたい3000粒くらいあったということです。

以後、世界中の研究者が、海にどんなプラスチックがあるかを一生懸命調べてきました。僕た

ちも南極から東京に向けて地球を縦断する航海を計画し、東京海洋大学の船に乗り込み調査した結果、マイクロプラスチックが浮いていない海はほぼ、どこにもなかったのです。

研究室では、海のプラスチックの写真を分析しています。魚の卵や子ども、プランクトン、微生物など以外の、かけらのように見えたものは全部プラスチックでした。本来の海の小さな生き物と同じくらい大きなサイズのプラスチックが海に漂って、散らばっていたのです。ですから、海の小さな生き物を食べる生き物が、それらと同じようなサイズのマイクロプラスチックを間違えて、どんどん食べてしまう現象が起きています。ということは、世界中の生き物の体中にプラスチックが入っているのが、今の地球の海の様子です。

海の生き物の関係ですが、小さなプランクトンが育っていくうちに、もう少し大きな魚に食べられます。その魚をもっと大きな魚が食べる。その大きな魚を哺乳類、アシカとかイルカ、クジラ、あるいは人間が食べていく、これを海の生態系といえます。いわゆる食物連鎖です。

プラスチックは食べても実は害はありません。しかし、プランクトンと同じくらい大きなサイズのプラスチックの表面には汚れが付きますので、それを魚が体内に運び込んでしまうことがあっても、プラスチックを食べ過ぎた魚はあまり大きく成長できなったり、体内のどこかがプラスチックで傷つき、弱くなっていたりするとされます。このまま将来、プラスチックのごみがさらに増え、マイクロプラスチックの量が増え、ということになれば、さすがに自浄能力のある海とはいえ、最終的な海の生態系に悪い影響が出るだろうということが提唱されています。

冒頭で述べたように、僕らはずっと、このマイクロプラスチックがどれだけ海に浮いているかを、10年かけて調べています。ひたすら船で網を引き、波間に漂うプラスチックのかけらを集めます。1回につき40分くらい引きます。非常に単純な仕事ですけど、瀬戸内海で、南極海から東京まで、網を引き続けました。引っかかりたモノを全部九州大学に持ち帰り、研究室でプラスチック

一見して矛盾する光景。それと、どう向き合うか。解決は困難か。
いつの日か大きな代償と共に矛盾が解決される日が来るか。日本の財政のように。

3 例会の「開催方法」とRC・当クラブの本質

昼例会（通常例会）に参加困難な方、又はかなり苦勞して参加されている方が一定数おられるので、その方々のため例会の時間や開催方法などの変更が検討されている。

それ自体は必ずしも異論はないものの、昼食以外の時間帯に実施する場合、①食事なし例会（食事時間以外の時間帯）、②昼以外の食事例会（夕食例会・朝食例会）のいずれとするのか適切か、会員の議論と総意が必要と思われる。

私個人としては、「同じ釜のメシ」ならぬ「一緒に食事をする」のが団体の求心力の一つと思われるので、なるべく①よりは②の方が望ましいと考える（①だと出席率に強い懸念が生じるかもしれない）。ただ、カナダ（HSRC）のような「朝食例会」は、よほど強い支持がないと実施困難では（そもそも市内で可能?）。また、毎週、宴会例会をするわけにもいかない（月1回が限度でしょう）ので、昼例会と同じ食事のみ＝酒なし例会を夜の時間帯に実施することも、考えて良いのでは。

ただ、その形式だと、恐らく現行会場で（同一額で）実施するのは無理ではないか。ホテルなどとは別の会場になるか。実施（確保）可能か。

また、「食事なし」或いは「毎週の例会をしない」とするなら、現在の会費を減額すべきと思われるが、それは当クラブにとって可能か。また、盛岡の各RCの横並び意識?との関係で、当クラブに独自路線は出せるのか。

そして、RCの本質を「有産階級（お金持ちと小金持ち）の親睦団体」と捉えるのなら、相応の会費と引き替えに、「ホテル又はそれに類する空間で、優雅?な食事をとりながら親睦を深める」のは、例会にとっては不可欠な要素になるのでは。仮に、「食事なし・会費少額」という路線に進むなら、それは「日本のRC」としては異質な路線をとることになるのでは。それは当クラブ（かつては典型的な「RCの優等生」であり続けたクラブ）にとって、容認できるのか。当クラブが目指す姿は?

4 当クラブの今昔と将来

RCの適正規模は50人前後で、30人を下回ると団体の維持運営が困難になる、とのお話を伺うことが多い。RCは「一業種一会員の原則」が象徴するように、会員の相互扶助（競争・敵対関係にある者が同じRCに所属することなく、信頼関係を形成して互いに様々な形で助け合うこと）を重視しつつ、様々な業種・業界の者が揃って助け合う・高め合うべきだとか奉仕活動には相応の規模が必要との理由から、50人程度（クラス規模）は集めるべき、と考えられている。

これが「JCは盛岡に一団体なのに、RCは沢山ある」理由と認識している。

反面、様々な理由で、当クラブほかRCの幾つかは、「適正規模」の確保が困難になってきている。いずれれ合併が不可避なのか、合同例会など「合併に準じた連携」で対処すべきか、否か。そもそも、当クラブの「相互扶助」や「奉仕活動」のあり方は。

主要メンバーの結束の強さが特色と言われるが、「身内で固まる」弊害は。

短期退会者が増加。帰属意識・持続性を高める努力・工夫は。新人歓迎会とか?

科学の目で見た
海のプラスチックごみ

かつて、たくさんのごみが黒潮をさかのぼって帰って来ました。

コンピュータの中につくる世界は、あまり小規模だと再現できません。しかし、揚子江の河口は巨大ですからコンピュータの中でも十分再現できます。全てのごみが揚子江から来たわけではない、きっとコンピュータでは再現できない小さな川からもごみは出ているでしょう。

類推すれば、世界の海のごみのほぼ80%は陸からやって来る、といことですよ。ある日、皆さんが街中でごみを落としてしまった。そのごみは小さな川に入って、それがもう少し大きな川に移り、それからもっと大きな川に移動して、という流れが世界中で起きているのです。そして最後に海に流れていってしまう。海岸にごみがじかに捨てられるという状況ではない。実際、遠賀川という福岡県を流れる大きな川の河口を、大雨が降った次の日に観察してみると、上手にたまっている大量のごみが増水した川の水によって、一気に海に流れ出ていました。

では、福岡県の最西端に位置する糸島のごみはどこから来たか。またやコンピュータでつくった海で、今度は糸島の海岸にごみを戻して見たのです。すると、そのごみは黒潮に乗って沖縄、そして台湾に戻って来ました。台湾で使われていた文字が書かれたプラスチックごみが、糸島で発見されるのもむべなるかな、でした。

片や、糸島から出したごみはどう流れていくのでしょうか? 先ほどは逆向きの海流の世界をつくりましたが、今度は先に進む海流の世界を、実験で再現すればいいわけです。すると、糸島から流したごみは2カ月後には津軽海峡を抜け、北海

道まで行ってしまふことが分かりました。

さらにその2カ月後には、ごみのほとんどは太平洋に流れ出ます。太平洋全体の流れて見れば、東京から流れたごみは、1年後にはアメリカに2、3年後には、福岡からのごみもアメリカに着するでしょう。

大事なポイントを繰り返します。単純に「海のごみ」と言いますが、海に直接遺棄されるごみは実はあまりありません。ごみのほとんどは陸で捨てられます。そして、川から海に出る。海は海流でつながっていますので、皆さんが海岸で捨てたごみは、他所から来たごみかもしれませんが、逆に、皆さんが捨てたごみはどこかに行き、ごみです。常に回り回って、自分たちの周りだけが散らかっているという話ではないのです。

プラスチックが問題になる理由

先に申しましたように今、海のごみで目立つのは、プラスチックごみです。陸で、私たちの毎日の暮らしの中で使う、いろいろなモノが海のごみの中に混じります。

無論、プラスチックが悪いわけではありません。とても優れた素材です。70年くらい前に出回り始め、あつという間にその価値が認められ、そして1989年、世界でつくられたプラスチックの量は初めて鉄鋼を抜きました（重さではなく体積での比較）ます。安いです。そして軽い。軽いということとは持ち運びに便利で、自由に形を変えられるということ。もっと大事なことは腐らないということです。かつ、清潔なまま残ります。とても衛生的な

素材です。水をプラスチックで運ぶとしたら、プラスチックの重さは考えなくていいわけです。水の成分には影響せず、きちんと長期にわたり保存することができます。しかも製造するにあたって安い。良いことづくめの素材です。

しかし世の中、裏と表があつて、良いことがあると悪いことがある。安いということは、誰もが無造作に買えるということ、そのまま平気で捨ててしまふ、という行為につながります。腐らないという性質も、自然界の中ではマイナスの要素に転じてしまいます。「腐敗」は自然界で大事な特徴の一つですから、モノが腐らないということは、遠くに散らばったまま永遠に、自然界の中に残ってしまうことなのです。

結局、プラスチックの特徴の一つとして「ごみになりやすい」ということも挙げられるのです。従って、プラスチックの廃棄方法はとても難しいことになりました。今、世界中の海岸に落ちているごみの70%はプラスチックとされるほどです。70年前、プラスチックがなかった頃の海岸の景色とは随分、変わってしまったと思います。

11カ国にわたる、僕らの研究仲間と一緒に出した新しい論文の成果を紹介しましょう。世界の水辺で検出されるごみの種類1200万個を全部記録しました。どんなごみがどこで多いのか。川、海岸、海の上、何千メートルという深海まで、地球上の水のある所に散らばる1200万個のごみを全部、調べたのです。

ごみ全体の約3分の2を食品に関わるプラスチックが占めました。食品の入っているケース、テイクアウト用のフォークやスプーン、そしてレジ袋。世界中で一番多いプラスチックごみとはし

科学の目で見た 海のプラスチックごみ

浜辺に行って砂をバケツの中に入れてみてください。そこに海水を入れて手で混ぜる。すると、プラスチックがふわりと浮かんできます。発泡スチロールも浮かんでくるでしょう。どれだけプラスチックが浮いているか、ぜひ観察してほしいのです。今の海の現状を、一度、しっかりと自分の目で見てください。

九州大学応用力学研究所附属
大気海洋環境研究センター教授 **磯辺 篤彦**
Atsuhiko Isobe

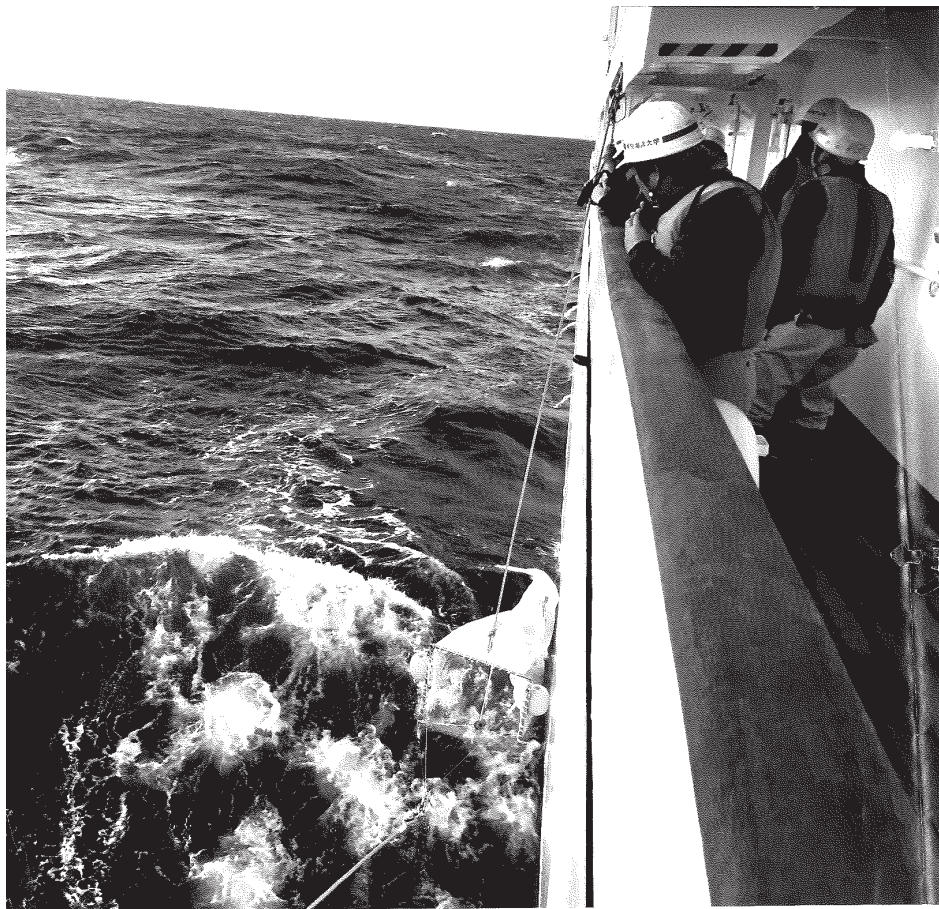
海流の動きを知る

私たち九州大学のチームは10年くらい、今日の講演タイトルをテーマとして研究を続けています。僕自身は初めは海、特に海流がずっと研究の対象でした。

数式を解いて、コンピュータを使って計算して、船に乗る。そんな仕事をしているうちに、海のプラスチックごみがやけに、非常に目立つようになってきたな……と、私だけではなく世界中の海の研究者、海洋学者が感じ始めました。そして今や、世界中でこの問題を研究しているといっても過言ではありません。

僕たちの研究は、アメリカの西海岸のとある町に出かけ、海岸にカメラを設置するようになってからも取り組んできました。海岸にある流れてきたモノがいつ、どういときたにたどり着くかを調べるためです。そこにカメラを置いて1時間に1回写真を撮る2年間にわたって撮り続けたのです。

東日本大震災の時、津波でたかさんの品物が、日本からアメリカの西海岸に流れ着いたというところで、アメリカまでのように流れていくのか調べてみることにしたのです。その定点カメラの記録を見ると、常に水が



太平洋での浮遊マイクロプラスチックの引き網採取 写真提供 九州大学応用力学研究所附属大気海洋環境研究センター

することにしました。アルゴは勝手に歩いたりできないのですが、海流に乗れば自然に流されていきます。ただし10日に1回くらい、海面近くから2000以下の海の中まで、上がったたり下がったりし、海面に出た時に自分が流された場所、海流、海流の向き、強さなどのデータを人工衛星に飛ばします。人工衛星はそれを受けて、僕たちに情報を渡します。この情報は、インターネットで誰でも見ることができるようになりました。現在、世界の海にはアルゴが4000台くらい流れています。

日本の海のごみはどこから

そこで、海流の向きを逆にする実験をしてみました。つまり、もし日本列島の周りの海流が全部逆向きになったら、どんな世界になるかをコンピュータの中につくったということです。逆向きの流れの世界。ごみは元あった場所に海流をさかのぼって、帰っていくことになりました。

その実験の結果は？ ある地点に、モノたちは吸い込まれていきました。その地点とは、中国の揚子江の河口でした。川の水が海に出る所に向

行ったり来たりします。波ではなく、潮の満ち引きです。きれいな浜辺になつているかと思つたら、いきなりどかどかモノが流れ着いたり、それが消えたり。海はこつこつとモノを運んでまたそれを波で持つていくのだな、と感じ入りました。一方、沖でもいろいろなモノが海流に乗って流れています。皆さんが海を見ていると、まず波が目に入ると思いますが、でも、波とはモノを運んで元に戻し、運んでは元に戻して、という動きであつて、波自体にはあまりモノを運ぶ力はありません。モノは基本的に海流と風が運びます。海流とは、川のような流れというよりも、大きな1個の渦のようなものです。日本列島でいうと、黒潮や対馬海流などがあります。下に沈んでいるモノは海流に押され、上に浮かんでいるモノは風に押されどどん運ばれていく。海流はほぼ時速3〜4km、人が普通に歩く速度で動いています。風はそれよりも10倍くらい速いので、海面に浮いているモノはより速く動いて、下に沈めば沈むほど、ゆっくりと海流に運ばれて動くこととなります。

そうやって海流、あるいは風に乗って運ばれたモノが流れ着いた海岸の事例を、石垣島で撮影しました。島でも人が行かないような海岸です。といることは掃除がされない、海流は南から北へ流れますから、ペットボトルなどが海岸に漂着したままになります。

この記録映像を見て、このようなごみは一体どこからやって来るのだろうか、ということに僕は知りたくなりました。そこで「AVO」アルゴという名前の、ミサイルみたいな形をしたロボットを使って、海の様子を観測するシステムを利用